

治山林道事業設計標準步掛

平成29年 7月

高知県林業振興・環境部 治山林道課

目 次

1. 歩掛の通勤補正	1
2. 木材（間伐材）使用歩掛	2
(1) 丸太土留工	2
(2) 丸太柵工（木柵工）【治山】	3
(3) 鉄筋杭の打込歩掛	4
(4) 丸太筋工	5
(5) 丸太法面工	6
3. 吸出防止材設置	7
4. 小型バックホウ掘削設計	8
5. 筋工	10
(1) 筋工（石筋）	10
(2) 筋工（萱）	10
(3) 植生土のう筋工	10
6. 土留工・護岸工等	11
7. 栗石等	11
8. 仮設工	11
(1) 仮設防護柵（木製）	11
(2) 切土用仮設防護柵（有効高 H=5.00m）	12
(3) 落石用仮設防護柵（有効高 H=5.00m）	12
(4) 安全防護柵（木製）	12
(5) 水替用排水管据付撤去	13

9. 森林整備関係歩掛	14
(1) 下刈り	14
(2) 枝落とし	14
(3) 造材	15
(4) 作業用歩道	16
10. 林道事業	17
(1) 丸太柵工（木柵工）【林道】	17
(2) 小動物に配慮した側溝	17
(3) ジオパックウォール工.....	18
(4) 土壁工用転落防止柵	18
(5) セメント安定処理	18
(6) 仮設用編柵設置・撤去（ポリネットシート）	20
(7) 巨石、コンクリート積（張）工関係歩掛.....	21
(8) コンクリートブロック積（張）工関係歩掛.....	23
(9) L型プレキャスト擁壁工関係歩掛.....	35
(10) 擁壁工（補強土壁工）関係歩掛.....	38
(11) ジオテキスタイル工（参考歩掛）	46

1. 歩掛の通勤補正

地理的条件により、地元市町村役場（市役所の支所等を含む）から現場までの往復に相当の時間（90分）以上を要する場合は、その時間に対応して歩掛を補正することができる。

$$K = 1 + \frac{T}{480}$$

K：補正係数（%、小数第3位四捨五入）

T：90分を超える通勤時間（分）

※ 所要通勤時間（分）－90（分）

通勤時間の計算基礎

(ア) 未舗装、林道以下 20 km/h

(イ) 1車線道路（舗装） 30 km/h

(ウ) 2車線道路（〃） 50 km/h

(エ) 歩道（〃） 4 km/h

$$\text{徒歩による通勤時間（分）} = \frac{2 \times \text{水平距離（m）} + \text{垂直高（m）} \times 6}{4,000} \times 60$$

（往復）

※ 現場の位置は事業割合に応じて荷重計算による。

2. 木材（間伐材）使用歩掛

(1) 丸太土留工（10m（11m²）当たり）

構造：法長1.1m 法3分（木材1.3344m³） ※1m当たり換算→10m²÷9.09

名称	規格	数量	単位	適要
杭木	長さ0.7m 末口8cm以上	13.60	本	1本当たり0.0045m ³
横木	末口10cm以上	27.30	本	1本当たり0.0200m ³ (標準末口10cm*長2.0m)
控木	長さ0.8m 末口10cm以上	90.90	本	1本当たり0.0080m ³
鉄線	なまし#10	16.10	kg	結束用
かや株	1m縄	5.00	束	採取
苗木		10.00	本	
世話役（一般）		0.60	人	
普通作業員		3.08	人	(3.00人 植栽除く)
	内訳	1.80	人	杭打、積仕上、緊結仕上、埋土
		1.05	人	かや株採取
		0.15	人	かや株植付仕上
		(0.06)	人	階段上苗木植栽
		(0.02)	人	施肥木植栽
階段切付	幅0.8m~			必要に応じて計上

備考1 階段切付及び植栽は必要に応じて計上する。

(2) 丸太柵工 (木柵工) 【治山用】

構造：高さ0.50m (木材0.6586m³)

1.0m 当たり

名 称	規 格	数 量	単 位	適 要
杭木	(長さ1.0m 末口9cm以上 根入0.5m)	(13.00)		1本当たり0.0081m ³
	長さ1.5m 末口9cm以上 根入1.0m	13.00	本	1本当たり0.0122m ³
横木	末口6cm以上	25.00	本	1本当たり0.0200m ³ (標準末口10cm*長2.0m)
かや株	1m縄	1.50	束	採取
普通作業員		1.50	人	組立、仕上 0.06人/本×25本
普通作業員		(0.36) 0.82	人	(0.40×0.7÷10×13本) 杭打0.90×0.7÷10×13本
普通作業員		0.36	人	かや株採取、植付仕上 (0.21+0.03)×1.5束
階段切付				必要に応じて計上
諸経費		1.00	%	

備考1 階段切付は、必要に応じて計上する。

2 上段 () は杭長1.0m 根入0.5m の場合の歩掛。

3 杭長1.5m 根入1.0m を標準とし、基礎地盤の土質や背後の法面の状況によって杭長1.0m 根入0.5m が適用できる。

4 基礎が岩盤等で杭打が困難な場合は、杭木を鉄筋とすることができる。

5 上記歩掛には、20m程度の現場内小運搬を含む。

6 諸経費は丸太の切り揃え等に用いるチェーンソーの損耗費と、結束用のなまし鉄線、しゅろ縄等の費用であり、組立、仕上げの労務費の合計額に上表の率を乗じた額を上限として計上する。

(3) 鉄筋杭の打込歩掛

柵工支柱杭 (鉄筋の場合)				
100本当たり				
名称	規格	数量	単位	適要
鉄筋	D=25 mm 異形棒鋼 L=1.0m 根入れ0.5m	0.398	t	3.98kg/m × 1.0 × 100 ÷ 1000
普通作業員		0.07	人	設置手間
削工手間		50.00	m	0.50 × 100
計				

備考1 鉄筋の頭部や先端を加工する場合は鉄筋加工組立歩掛の加工歩掛を適用する。

ただし、切断のみの場合は加工費は計上しない。

削孔歩掛 (軟岩)				
100m当たり				
名称	規格	数量	単位	適要
世話役 (一般)		0.60	人	
削岩工		1.30	人	
普通作業員		1.30	人	
空気圧縮機運転	可搬式 7.5~7.6m ³ /min	0.60	日	市場価格
レッグハンマー	損料、40kg 級	1.30	日	
テーパーロッド	φ 22mm * 1400 mm	0.30	個	
カービット	φ 22mm 用 32 mm	0.70	個	
計				

(4) 丸太筋工

構造：高さ0.30m (木材0.3975m³)

10m 当たり

名 称	規 格	数 量	単 位	適 要
杭木	(長さ0.6m 末口9cm以上 根入0.3m)	(15.00)		1本当たり0.0049m ³
	長さ0.8m 末口9cm以上 根入0.5m	15.00	本	1本当たり0.0065m ³
横木	末口6cm以上	15.00	本	1本当たり0.0200m ³ (標準末口10cm*長2.0m)
かや株	1m縄	1.00	束	採取
世話役 (一般)		0.11	人	
普通作業員		0.55	人	床均し、杭打、組立、仕上
普通作業員		0.24	人	かや株採取、植付仕上 (0.21+0.03) × 1.0束
普通作業員		0.13	人	埋戻し
諸経費		1.00	%	

備考1 階段幅30cm程度の階段切付を含む。

2 杭長0.8m根入0.5mを標準とし、基礎地盤の土質や背後の法面の状況によって杭長0.6m根入0.3mが適用できる。

3 上記歩掛には、20m程度の現場内小運搬を含む。

4 諸経費は丸太の切り揃え等に用いるチェーンソーの損耗費と、結束用の焼なまし鉄線、しゅろ縄等の費用であり、組立、仕上げの労務費の合計額に上表の率を乗じた額を上限として計上する。

(5) 丸太法面工

丸太法面工				
10m当たり				
名称	規格	数量	単位	適要
支柱杭設置	D=22mm 異形棒鋼	10.00	本	杭間隔1.0m
背丸太	末口6cm以上	0.064	m ³	間伐材等 (標準積算末口8cm)
普通作業員		0.20	人	
諸経費		5.00	%	労務費の5%
計				

備考1 諸経費は背丸太と支柱杭を結束する焼なまし鉄線等の費用として労務費の5%を計上する。

2 支柱杭に木杭を使用する場合は別途算出する。

丸太法面工支柱杭設置					
10本当たり					
名称	規格	土砂	岩盤	単位	適要
支柱杭	D=22mm 異形棒鋼 土砂L=1.00m・岩盤L=0.60m	30.40	18.24	kg	杭間隔1.0m 3.04kg/m
世話役(一般)			0.08	人	
特殊作業員			0.26	人	
普通作業員		0.30	0.03	人	
発動発電機賃料	ディゼル10KVA、6.4h/日		0.08	日	
ハンマドリル損料	φ=38mm		0.26	日	
計					

備考1 支柱杭に木杭を使用する場合は別途算出する。

2 鉄筋の頭部や先端を加工する場合は鉄筋加工組立歩掛の加工歩掛を適用する。

ただし、切断のみの場合は加工費は計上しない。

3. 吸出防止材設置

表 1 吸出防止材設置歩掛 (100㎡当たり)

名 称	吸出防止材設置
普通作業員(人)	0.6

備考1 全面に設置する場合の重ね合わせ等による材料の割増率は+0.07とし、点在する場合の材料の割増率は0とする。

単価表

吸出防止材設置 (100㎡当たり)

名 称	規 格	数 量	単 位	摘 要
普通作業員		0.6	人	表 1
吸出防止材			㎡	〃
諸 雑 費		1	式	
計				

4. 小型バックホウ掘削設計

- 機種規格 油圧式クローラ型、0.04m³
- 適用範囲 幅員1.0mを超え1.5m以下で環境保全林整備事業等の歩道に適用する。
- 機関出力 13KW
- 時間当たりの燃料消費率 0.175
- 1時間当たりの土工量 (V_s)

$$V_s = \frac{3,600}{cm} \times q \times E \quad (\text{m}^3/\text{h})$$

q : 1サイクル当たりの掘削積込量 (m³)

$$0.04 \times 0.98 = 0.039 \div 0.04 \text{m}^3$$

E : 作業効率 (一般土工適用)

現場条件 土質名	地山の掘削積込			ルーズな状態の土砂積込		
	良好	普通	不良	良好	普通	不良
砂・砂質土	0.80	0.65	0.50	0.85	0.70	0.55
粘性土・礫質土	0.75	0.60	0.45	0.80	0.65	0.50
岩塊・玉石	0.60	0.45	0.30	0.65	0.50	0.35
軟岩 (I) A	0.60	0.45	0.30	0.80	0.65	0.50
破碎岩	—	—	—	—	0.45	0.30

備考1 構造物の床掘作業に使用する場合は、0.05を減じた値とする。

- 2 作業現場が広く、地山が緩んでいて、しかも作業妨害が少なく連続作業が可能等の条件がそろっている場合は良好をとる。
- 3 作業現場が狭く、掘削深が最適でなく、また地山が固く、かつ連続作業が困難で作業妨害が多い等の条件がそろっている場合は不良をとる。
- 4 掘削深が最適でも地山が固い場合、または掘削深が最適でなくても土が緩んでいる場合等、上記の条件がほぼ中位と考えられるような場合は普通をとる。
- 5 ルーズな状態の土砂積込みの場合は、上記のうち土の固さの条件を除いた他の条件を勘案して数値を決めるものとする。
- 6 破碎岩とは、中硬岩及び硬岩を破碎したものをいう。

cm : 1サイクルの所要時間 (Sec)

機種 \ 旋回角度	90°	180°
バックホウ	30	35
クライムシエル	36	42

備考1 バックホウについては、掘削は90°、掘削積込は180°旋回を標準とする。

2 クライムシエルの旋回角度は90°を標準とする。

※ 運転日当たり標準運転時間は5.6h/日とする。

※ 供用日当たり標準運転時間は3.9h/日とする。

No. バックホウ運転 単 価 表					
構 造		油圧式クローラ型 0.04m ³			1時間当たり
名 称	材料形状寸法	数 量	単 位	摘 要	
特 殊 作 業 員		0.18	人	1 ÷ T T=5.6h/日	
燃 料 費	軽油	2.30	リットル	13KW × 0.175	
機 械 損 料		0.18	日	1h ÷ 5.6h/日	
計					

5. 筋 工

(1) 筋 工 (石筋) 単 価 表				
構 造 H=0.5m S=1:0.30				10m当たり
名 称	材料形状寸法	数 量	単 位	摘 要
石 筋 石	控え15cm以上	5.00	m ²	
石 筋 石 採 取		0.75	m ³	0.6人/m ³ ×
〃 積 仕 上 げ		5.00	m ²	0.24人/m ² ×
萱 株 採 取		2.00	束	0.21人/束×
〃 植 付 仕 上		2.00	束	0.03人/束×
階 段 切 付	(A)幅0.5m			必要に応じて計上
計				

(2) 筋 工 (萱) 単 価 表				
構 造				10m当たり
名 称	材料形状寸法	数 量	単 位	摘 要
萱 株 採 取		2.00	束	0.21人/束×
〃 植 付 仕 上		2.00	束	0.03人/束×
階 段 切 付	(A)幅0.3m			必要に応じて計上
計				

(3) 植生土のう筋工 単 価 表				
構 造 3段積 H=0.3m S=1:0.30				10m当たり
名 称	材料形状寸法	数 量	単 位	摘 要
植 生 土 の う	仕上り寸法 0.5*0.3*0.1m	60.00	袋	20袋×3段
中 詰 土		1.08	m ³	
止 釘	異形棒鋼 D=10mm	31.36	kg	0.56kg/m×80本×0.70m
普 通 作 業 員		0.60	人	袋詰込み 0.20×3段
普 通 作 業 員		0.35	人	張付仕上げ、止釘打込 0.10×3段+0.05
普 通 作 業 員		※0.54	人	中詰土採取 0.18×3段
		※現地発生の土砂を使用する場合は計上しない。		
計				

6. 土留工・護岸工等

方格枠工組立歩掛

- ① 普通作業員（組立） 0.44人/10本
- ② 普通作業員（中詰石詰込） 0.44人/m³
- ③ 運搬、床堀、鉄筋等は別途計上すること。
- ④ 取り壊しは歩掛の1/2とする。

7. 栗石等

現場採取歩掛

(1.0m³当たり)

区 分	規 格	普通作業員
栗 石 (割栗石)	5～30cm	0.5人
詰 石 (玉石)	15～30cm	0.6人
石筋石	15cm以上 (15～30cm)	0.6人

8. 仮設工

(1) 仮設防護柵（木製）

資 材 明 細 表					
名 称	形 状 寸 法	単 位 数 量	本 数	数 量	
主 柱	(杉) L=2.00m φ=0.12m	0.029m ³	10本	0.290m ³	
横 梁	(杉) L=5.50m φ=0.09m	0.044m ³	4本	0.180m ³	
控 木	(杉) L=2.00m φ=0.12m	0.029m ³	5本	0.150m ³	
控 杭	(杉) L=1.00m φ=0.12m	0.014m ³	5本	0.070m ³	
計				0.690m ³	
土 留 板	(杉) L=2.00m 0.20*0.036	0.014m ³	38枚	0.530m ³	

No.	仮設防護柵（木製）		単 価 表		
構 造	H=1.5m L=10m		10m当たり		
名 称	材 料 形 状 寸 法	数 量	単 位	摘 要	
丸 太	杉等 L=1.0～5.5m D=0.09～0.12m	0.69	m ³	損料単価	
板 材	W=0.2m t=0.036m	0.53	m ³	損料単価	
雑 材 料	釘、鉄線等	10.00	%	上記材料費の10%	
普 通 作 業 員		5.90	人		
計					

(2) 切土用仮設防護柵 (有効高 H=5.00m)

1箇所当たり

区 分	規 格	計 算 式	数 量
H 型 鋼	200*200*8*12	49.9 kg/m×6.00×本	kg
H 型 鋼	125*125*6.5*9	23.6 kg/m×5×(延長)m	kg
間 伐 材	L=2.00m/本 10 cm	0.016m ³ ×10×(延長)m	m ³
ラ ス 金 網	(メッキ) 2*50*50	3.00×(延長)m	m ²
シ ー ト	防災一種	3.00×(延長)m	m ²
コンクリート	σ _{ck} =18N/mm ²	(0.80×1.00×(延長))-0.15×0.15×3.14×1.00 ×(箇所数)	m ³
土 砂 掘 削		0.80×1.00×(延長)m	m ³
ボ イ ド 管	300*1,000 mm	1.00×(箇所)	m
中 詰 砂		0.15×0.15×3.14×1.00×(箇所)	m ³
雑 材 料		間伐材料費×10% (番線等費用)	

(3) 落石用仮設防護柵 (有効高 H=5.00m)

1箇所当たり

区 分	規 格	計 算 式	数 量
H 型 鋼	250*250*9*14	71.8 kg/m×6.00×本	kg
鋼 矢 板	400*100*10.5	48.0 kg/m×11×(延長)m	kg
コンクリート	σ _{ck} =18N/mm ²	(0.80×1.00×(延長))-0.20×0.20×3.14×1.00 ×(箇所数)	m ³
土 砂 掘 削		0.80×1.00×(延長)m	m ³
ボ イ ド 管	400*1,000 mm	1.00×(箇所)	m
中 詰 砂		0.20×0.20×3.14×1.00×(箇所)	m ³

(4) 安全防護柵 (木製)

資 材 明 細 表				
名 称	形 状 寸 法	単 位 数 量	本 数	数 量
主 柱	(杉) L=6.00m φ=0.14m	0.092 m ³	4	0.368 m ³
支 柱	(杉) L=4.50m φ=0.14m	0.069 m ³	4	0.276 m ³
横 木	(杉) L=4.50m φ=0.14m	0.069 m ³	2	0.138 m ³
	(杉) L=3.50m φ=0.10m	0.027 m ³	10	0.270 m ³
筋 交 い	(杉) L=6.00m φ=0.10m	0.047 m ³	4	0.188 m ³
カ ス ガ イ	1箇所当たり2本	0.15 kg	80	12.0 kg
鉄 線 # 1 0	1箇所当たり2.0m	0.07 kg	90	6.3 kg

杉素材計=0.97m³

杉素材計=0.27m³ 1箇所当たり 5.00×3.00×2=30.00m²

No.	安全防護柵（木製）		単 価 表		
構 造	H=5.00m W=3.00m (5.00×3.00)×2=30.00㎡ 1箇所当たり				
名 称	材料形状寸法	数 量	単 位	摘 要	
素 材	杉等 L=4.0m以下 D=0.10m	0.27	m ³	損料単価	
素 材	杉等 L=4.0~6.0m D=0.14m	0.97	m ³	損料単価	
カ ス ガ イ		12.00	kg		
鉄 線	#10	6.30	kg		
				(杵組足場適用)	
世 話 役 (一 般)		0.42	人	1.4人÷100㎡×30.0㎡	
と び 工		1.74	人	5.8人÷100㎡×30.0㎡	
普 通 作 業 員		0.42	人	1.4人÷100㎡×30.0㎡	
ラフテレンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型25t吊	0.36	日	1.2日÷100㎡×30.0㎡	
計					

備考1 ラフテレンクレーン(賃料)は上記規格を標準とするが、これによりがたい場合は別途考慮すること。

(5) 水替用排水管据付撤去

据付、撤去歩掛

(100m当たり)

名 称	規 格	数 量	単 位	適 要
普通作業員		1.2	人	据付・撤去
排水管(損料)	管径200mm~400mm	100.0	m	

備考1 本歩掛はポリエチレン管、硬質塩化ビニル管等これらに属する排水管の設置撤去に適用する。

- 2 運搬距離100m程度までの小運搬を含む。
- 3 排水管の補正係数(管の切断プロセス)は、+0.01として上表に含む。
- 4 損率は、治山林道必携(仮設資材損率表)の送水ホースを適用する。

9. 森林整備関係歩掛

(1) 下刈

対象齢級はⅡ齢級以下を標準とする。

1) 2回刈の2回目

(1.0ha当たり)

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	0.12	
特 殊 作 業 員		〃	2.22	
普 通 作 業 員		〃	2.22	
諸 雑 費		%	2	

備考1 草刈機による振動業務の作業時間は、1人1日当たり2時間以内とする。

2 諸雑費は、草刈機の損料、燃料、替刃、目立用ヤスリ並びに下刈鎌の損料及び砥石の経費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じて得た金額を上限として計上する。

3 この歩掛は全刈りを原則とし、筋刈、坪刈等、特殊な施行を必要とする場合は、実情に応じて基礎人役を補正する。

4 補正については、5-1-9下刈歩掛(全刈り(1回刈り))の補正を適用する。

(2) 枝 落 し

この歩掛は、保安林機能を強化するため刈枝葉等を除去する歩掛である。(経済性を高めることを目的としたものは除く)

対象齢級はⅢ齢級以上とする。

区 分	摘 要		1人当/本
針葉樹	1回目	枝落高3.0m	120本
〃	2回目	枝落高4.5m	100本
広葉樹	1回目	枝落高3.0m	132本
〃	2回目	枝落高4.5m	110本

備考1 補正については傾斜による補正とする。

1) 傾斜による補正

平均傾斜	係 数
30度以上	+10%
20～30度未満	0%
20度未満	-5%

備考1 1日1人当たりの本数であるので枝落とし本数を設定し人役を算出する。

(3) 造 材

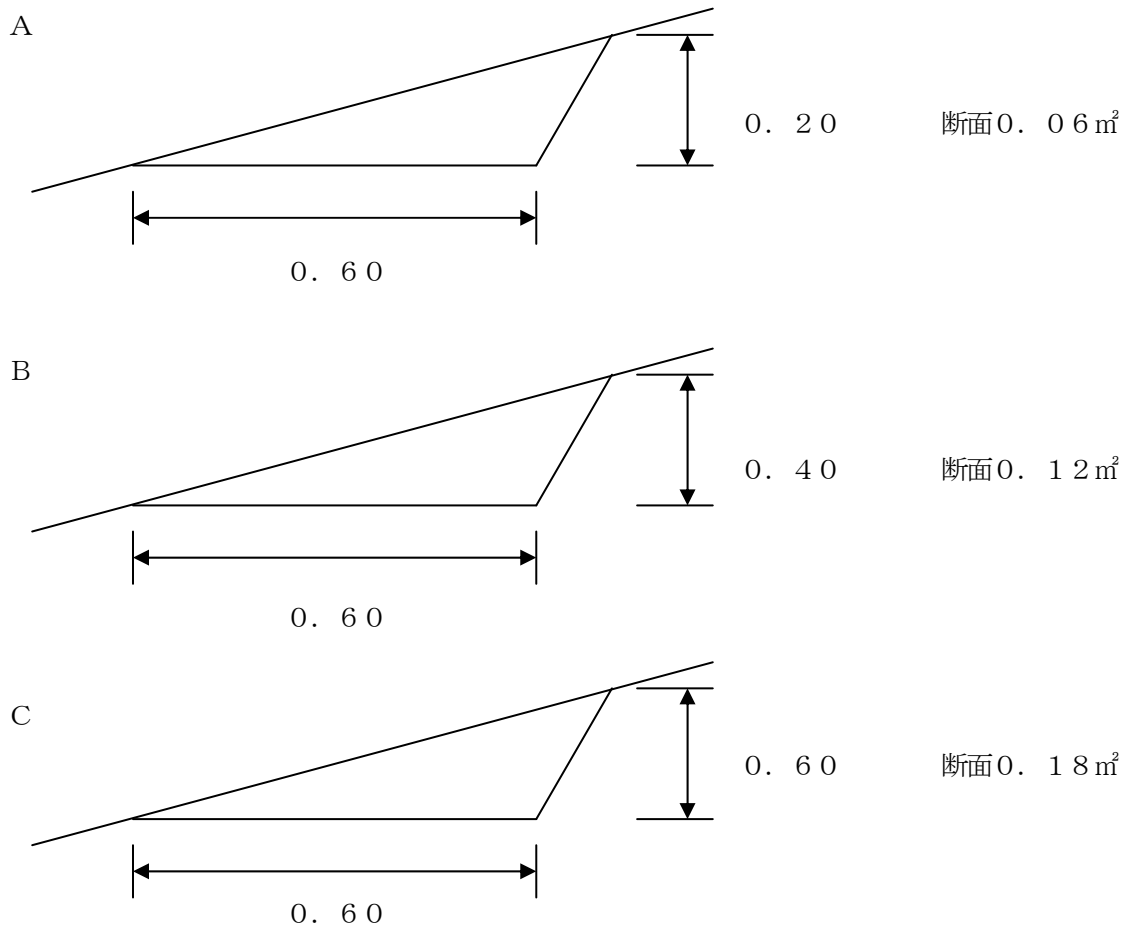
この歩掛は、間伐材利用による土留工、柵工、筋工等の現地材料を使用する場合の歩掛である。
スギ (10m³ 当たり)

名 称	単 位	平均胸高直径					摘 要
		10cm 未満	10cm 以上 16cm 未満	16cm 以上 22cm 未満	22cm 以上 28cm 未満	28cm 以上	
特殊作業員	人	0.83	0.78	0.63	0.52	0.49	
普通作業員	人	0.83	0.78	0.63	0.52	0.49	
諸雑费率	%	4					

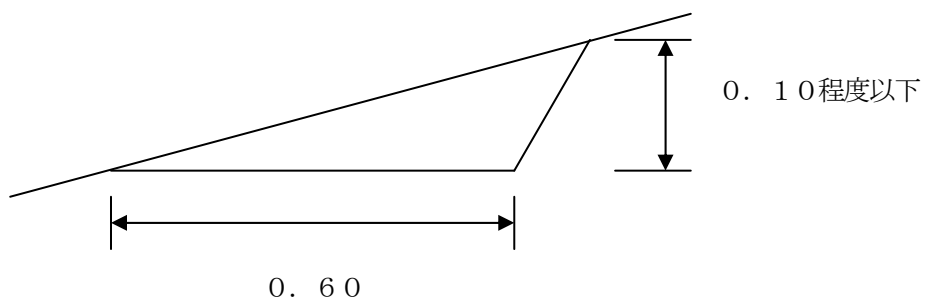
- 備考 1 本表はスギの工程であり、ヒノキの場合には特殊作業員及び普通作業員の数値をそれぞれ
+0.03人補正する。
- 2 諸雑費は、チェーンソーの損料及び燃料費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗
じた金額を上限として計上する。

(4) 作業用歩道

1) 作業用歩道設計における人力掘削の標準断面図は下記による。



2) 路面の整地、既設歩道の修復程度（10cm程度以下の掘削）の作業用歩道については、10m当たり 普通作業員 0.08人とする。



10. 林道事業

(1) 丸太柵工(木柵工)【林道用】

構造：高さ0.50m(木材0.6586m³)

10m当たり

名称	規格	数量	単位	適要
杭木	(長さ1.0m 末口9cm以上 根入0.5m)	(13.00)	本	1本当たり0.0081m ³
	長さ1.5m 末口9cm以上 根入1.0m	13.00		1本当たり0.0122m ³
横木	末口6cm以上	25.00	本	1本当たり0.0200m ³ (標準末口10cm*長2.0m)
普通作業員		1.50	人	組立、仕上 0.06人/本×25本
普通作業員		(0.36) 0.82	人	(0.40×0.7÷10×13本) 杭打0.90×0.7÷10×13本

備考1 本歩掛は、林道事業に適用する。ただし、現場条件に応じて階段切付が必要となる場合は、丸太柵工(木柵工)【治山用】を適用できるものとする。

- 2 上段()は杭長1.0m根入0.5mの場合の歩掛。
- 3 杭長1.5m根入1.0mを標準とし、基礎地盤の土質や背後の法面の状況によって杭長1.0m根入0.5mが適用できる。
- 4 基礎が岩盤等で杭打が困難な場合は、杭木を鉄筋とすることができる。
- 5 上記歩掛には、20m程度の現場内小運搬を含む。

(2) 小動物に配慮した側溝

1) 小動物保護側溝設置歩掛 (土砂基礎用)

1基当たり

名称	単位	数量	摘要
普通作業員	人	0.01	練石積み
普通作業員	人	0.36	杭打込み 0.7×0.3×17÷10

2) 小動物保護側溝設置歩掛 (岩基礎用)

1基当たり

名称	単位	数量	摘要
普通作業員	人	0.05	練石積み

(3) ジオパックウォール工

壁面材組立・設置工（法面ユニット設置）歩掛

100㎡当たり

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	0.71	
特 殊 作 業 員		人	1.42	
普 通 作 業 員		人	9.42	
バックハウ運転	山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	日	2.94	1×100÷34
諸 雑 費		%	47.00	

備考1 上記100㎡当たりは、壁面材の実面積（直面積）である。

- 2 諸雑費は、小型バックハウ、振動ローラ、ランマ及びタンパの運転経費、裏型枠の損料、裏型枠に必要とする雑材料及び、ジオテキスタイル敷設に使用する杭、木づち、バール等及び壁面材を固定するボルト・ナット等の費用、また、天端取り合わせのための植生土のうの材料、据付にかかる費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に乗じた額を上限として計上する。

(4) 土壁工用転落防止柵

(設置延長18m・設置撤去1回当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	0.10	
普 通 作 業 員		人	0.30	
諸 雑 費		%	30.00	

備考1 諸経費は、アンカー、支柱、手すり等の費用とし労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

- 1) アンカーの設置は施工基面から1段目上部、3段目上部、以降奇数段毎上部に設置する。
- 2) 延長は、3段目より上部の延長を、アンカーを設置した各段毎に積上げ計上する。

備考2 平成17年9月1日以降の適用

(5) セメント安定処理

- 1) スタビライザ路盤工のセメント材散布歩掛について
スタビライザ路盤工におけるセメント材料の設計は1t袋入りを標準とし、散布歩掛については以下のとおりとする。

100㎡当たり

名 称	規 格	単 位	数 量
普 通 作 業 員		人	3人×100÷D
トラッククレーン	油圧式4.8～4.9t吊	日	100÷D

備考1 D=790㎡（日当たり施工量）

- 2 普通作業員の作業内容は、固化材の散布、混合及び敷均し作業の補助労務である。
(構成員・・・3人)
- 3 トラッククレーンは賃料とする。

2) スタビライザ路盤工 単価表 1.0m ² 当たり							
構造 厚さ t=○cm セメント添加量○% 材料の補正係数0.02							
名 称	形状寸法	数 量	単 位	単 価	金 額	単価表 番号	備 考
普通又は高炉セメント	1 t 袋		t	円	円		設計密度× 添加量× 1.02× 混合深× 100
スタビライザ運転	1.6m		h			No.1	
モーターグレーダ運転	3.1m		h			No.2	
マカダムローラ運転	10~12t		h			No.3	
タイヤローラ運転	8~20t		h			No.4	
トラックレン賃料	油圧式 4.8~ 4.9吊	0.1 3	日				100÷790
普通作業員		0.3 8	人				3×100÷ 790
計					／100		

No.1 スタビライザ運転 (セメント安定処理工) 単価表 1.0時間当たり							
構造 1.6m							
名 称	形状寸法	数 量	単 位	単 価	金 額	単価表 番号	備 考
特殊運転手		0.20	人	円	円		200÷40=5.0 1÷5.0
軽 油		9.80	L				88kw×0.111
機械損料		1.00	h				
計							

No.2 モーターグレーダ運転 (セメント安定処理工) 単価表 1.0時間当たり							
構造 3.1m							
名 称	形状寸法	数 量	単 位	単 価	金 額	単価表 番号	備 考
特殊運転手		0.19	人	円	円		380÷70=5.4 1÷5.4
軽 油		9.20	L				85kw×0.108
機械損料		1.00	h				
計							

No.3 ロードローラ運転 (セメント安定処理工) 単価表 1.0時間当たり							
構造 マカダム両輪駆動 10~12t							
名 称	形状寸法	数 量	単 位	単 価	金 額	単価表 番号	備 考
特殊運転手		0.20	人	円	円		360÷70=5.1 1÷5.1
軽 油		6.60	L				56kw×0.118
機械損料		1.00	h				
計							

No. 4		タイヤローラ運転 (セメント安定処理工)			単価表		1.0時間当たり	
構造		8~20t						
名称	形状寸法	数量	単位	単価	金額	単価表 番号	備考	
特殊運転手		0.19	人	円	円		380÷70=5.4 1÷5.4	
軽油		6.00	L				71kw×0.085	
機械損料		1.00	h					
計								

(6) 仮設用編柵設置・撤去 (ポリネットシート)

10m当たり

名称・規格	単位	数量	適用
編柵用杭 末口6cm 長1.5m	本	15.00	
普通作業員	人	0.90	杭打+撤去
ポリネットシート 長30m巾62cm	m	10.30	
普通作業員	人	0.15	ポリネットシート設置+撤去
鉄線 ナマシ10番	kg	2.08	
釘 各種	kg	0.80	
萱株採取※	束	2.00	
萱株植付け仕上げ※	束	2.00	

※は必要に応じて計上。

撤去歩掛は設置歩掛人役の50%とする。

(7) 巨石、コンクリート積（張）工関係歩掛

1) 適用範囲

この歩掛は、トラッククレーン使用による、石積（張）工の施工に適用する。また、玉石及び雑割石（控長 25～50cm）の積工（勾配 1 割未満）及び張工（勾配 1 割以上）に適用する。

2) 積工施工歩掛

1 積工、張工歩掛

(10㎡当たり)

積張の区分			積工		張工		
工種の区分			練石		練石		空石
石の種類			玉石	雑割石	玉石	雑割石	玉石
名称	規格	単位					
世話役		人	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
石工		〃	0.6	0.7	0.5	0.5	0.5
山林砂防工 (普通作業員)		〃(〃)	2.9	3.5	2.1	2.3	2.1
トラック クレーン運	伸縮ジブ型16t吊	h	3.0		1.9		

備考1 上表の歩掛には、水抜きパイプ及び吸出防止材の設置を含む。ただし、吸出防止材を全面に設置する場合は、別途計上する。

2 トラッククレーンの運転には、石材、胴込材、裏込材などの吊り上げ、吊り下げ作業を含む。

3 運搬距離 20m程度の小運搬を含む。

2 胴込・裏込コンクリート投入打設歩掛

(10㎡当たり)

積張の区分			積工	張工	
投入材	名称	単位			
胴込・裏込 コンクリート	特殊作業員	人	1.3	1.5	
	山林砂防工(普通作業員)	〃(〃)	1.8	1.9	
諸雑費率			%	12	6

備考1 諸雑費は、コンクリートバケツ損料、バイブレータ損料、型枠等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2 運搬距離 20m程度の人力による小運搬を含む。

3 基礎コンクリートは、治山林道必携共通項第3コンクリート工により別途計上する。

4 胴込コンクリート量は、玉石の場合面積に控長の 1/3 を、雑割石の場合は 1/2 を乗じたものとする。

3 裏込材（クラッシュラン）投入歩掛

(10㎡当たり)

積張の区分			積工	張工	
投入材	名称	単位			
クラッシュラン	山林砂防工(普通作業員)	人(〃)	1.9	1.0	
諸雑費率			%	3	4

備考1 諸雑費は、つき固め機械等の損料及び油脂費の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じて得た金額を上限として計上する。

2 空石張の胴込材の量は、面積に玉石の控長の 1/3 を乗じたものとする。

3 運搬距離 20m程度の人力による小運搬を含む。

3) トラッククレーンの作業範囲

規 格	打 設 高 さ	水平打設距離
排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型16 t	約18m以下	約10m以下

バケットは、0.6 m³を標準とする。

4) 胴込・裏込材の使用量

使用量(m³)=設計数量 (m³) × (1+K)

K:補正係数

材 料 名	クラッシュラン	胴込コンクリート 裏込コンクリート
補正係数	+0.20	+0.17

5) 単価表

1 石積(張)工 10 m²当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		(2)-1)
石 工		〃		〃
山林砂防工(普通作業員)		〃(〃)		〃
石 材		m ²	10	
水 抜 き パ イ プ		本		必要に応じて 別途計上
吸 出 防 止 材		m ²		〃
胴 込 ・ 裏 込 コ ン ク リ ー ト 工		m ³		2)単価表
裏 込 材 工		〃		3)単価表
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型 16t吊	h		(2)-1)
諸 雑 費		式	1	
計				

2 胴込・裏込コンクリート工 10 m³当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		(2)-2)
山林砂防工(普通作業員)		〃(〃)		〃
コ ン ク リ ー ト		m ³	11.7	10×[1+補正係数(4)]
諸 雑 費		式	1	(2)-2)
計				

3 裏込材工(クラッシュラン) 10 m³当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
山林砂防工(普通作業員)		人(〃)		(2)-3)
ク ラ ッ シ ャ ラ ン		m ³	12.0	10×[1+補正係数(4)]
諸 雑 費		式	1	(2)-3)
計				

4 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
トラック クレーン	油圧伸縮ジブ 型16 t 吊	機-1	

(8) コンクリートブロック積（張）工関係歩掛

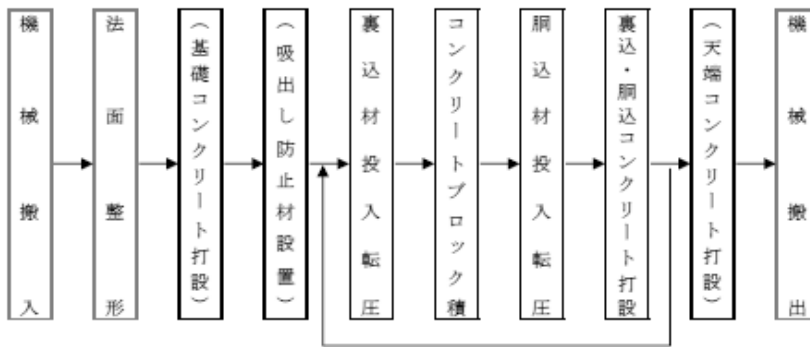
1) 適用範囲

本資料は、間知ブロックの積工（勾配1割未満、ブロック質量 150 kg/個以上 2,600 kg/個以下）、緑化ブロックの積工（勾配1割未満、ブロック質量 980 kg/個以下）及び間知ブロック、平ブロック、連節ブロックの張工（勾配1割以上、ブロック質量 770 kg/個以下）に適用する。

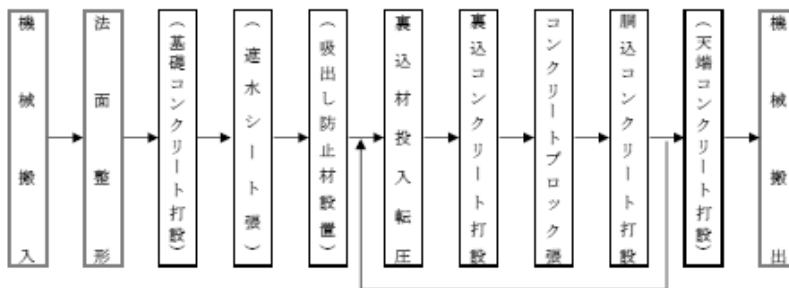
2) 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

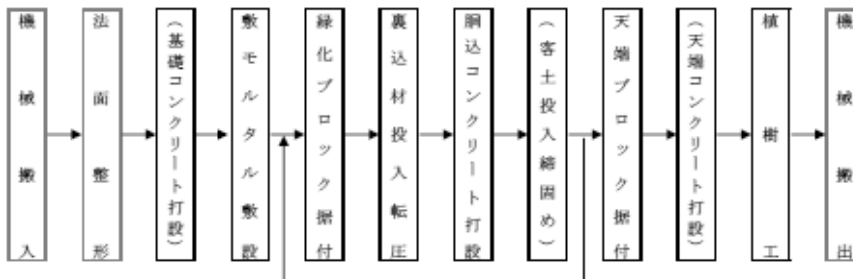
(1) コンクリートブロック積工



(2) コンクリートブロック張工



(3) 緑化ブロック積工



(注) 1 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

2 () 書きは必要な場合に計上する。

3) 施工歩掛

1 コンクリートブロック積（張）工

コンクリートブロック積（張）工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 コンクリートブロック積工歩掛

(10 m²当たり)

ブロック 質 量	積張の区分			積工		張工		
	ブロックの種類			間知 ブロック	緑化 ブロック	間知 ブロック	平 ブロック	連節 ブロック
	名 称	規 格	単 位					
150 kg/個 未満	世 話 役		人	※(注)15	0.2	0.1	0.1	0.1
	ブ ロ ッ ク 工		〃		1.0	0.2	0.2	0.2
	特 殊 作 業 員		〃		0.5	0.2	0.1	0.1
	山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃		0.9	0.4	0.4	0.6
	ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型(第 1次基準値)油圧伸 縮ジブ型25t吊	日		0.6	0.3	0.2	0.2
	諸 雑 費 率		%		1	—	(21)	1

150 kg/個 以上	世 話 役		人	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
	ブ ロ ッ ク 工		〃	0.8	0.7	0.3	0.2	0.2
	特 殊 作 業 員		〃	0.4	0.3	0.1	0.1	0.2
	山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃	0.4	0.3	0.3	0.2	0.4
	ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型(第 1次基準値)油圧伸 縮ジブ型25t吊	日	0.4	0.5	0.2	0.1	0.2
	諸 雑 費 率		%	(4)	2	—	(26)	2

- (注) 1 間知ブロック積の施工歩掛には、鉄筋の加工・組立歩掛を含む。ただし、鉄筋は必要により計上とし、使用量は設計量×1.03とする。
- 2 間知ブロック積の（ ）内の諸雑費は、水抜パイプ（水抜孔用吸出し防止材を含み、全面施工する場合は表3.5による）を設置した場合の材料費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 3 緑化ブロック積の諸雑費は、敷モルタル、目地モルタル等の材料費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 4 平ブロックの施工歩掛には、連結金具の組立歩掛を含む。ただし、連結金具は必要により別途計上する。
- 5 平ブロックの（ ）内の率は、目地モルタルを使用した場合の材料費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 6 連節ブロックの連結方式は鉄筋又は鋼線によるものとし、連結金具を使用する場合は別途考慮する。
- 7 連節ブロックの施工歩掛には、鉄筋又は鋼線の加工・組立、溶接等の歩掛を含む。ただし、鉄筋又は鋼線は必要量を別途計上し、使用量は設計量×1.03とする。
- 8 連節ブロックの諸雑費は、溶接機の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 9 ラフテレーンクレーンの運転は、コンクリートブロック、胴込・裏込コンクリート及び胴込・裏込材（緑化ブロックは除く。）の吊上げ及び吊下げ作業を含む。
- 10 ラフテレーンクレーンは、賃料とする。なお、現場条件等により25t吊で施工が不可能な場合は、規格以上で最適の機種を選定するものとする。
- 11 運搬距離30m程度の現場内小運搬を含む。
- 12 現場条件により特に足場が必要な場合は、別途計上することが出来る。
- 13 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する（参考図参照）。
- 14 連節ブロックの再利用等を目的とする場合の撤去費は、設置費の50%とする。
- 15 コンクリートブロック積工（150kg/個未満）については、「市場単価、コンクリートブロック積工」による。

2 胴込・裏込コンクリート、裏込材工

① 胴込・裏込コンクリート打設歩掛

胴込・裏込コンクリート打設歩掛は、次表を標準とする。

表3.2 胴込・裏込コンクリート打設歩掛 (10m²当たり)

投入材	名 称	規 格	単 位	数 量
胴込・裏込 コンクリート	特 殊 作 業 員		人	1.2
	山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		〃	2.3
諸 雑 費 率			%	10

(注) 1 諸雑費は、コンクリートバケット、パイプレータ、電力に関する経費、型枠等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2 運搬距離30m程度の現場内小運搬を含む。

3 養生が必要な場合は、「治山林道必携第3コンクリート工」による。

② 胴込・裏込材投入歩掛

胴込・裏込材投入歩掛は、次表を標準とする。

表3.3 胴込・裏込材投入歩掛

ブロックの種類				間知・平 ブロック	緑化 ブロック
投入材	名 称	規 格	単 位		
砕 石	特殊作業員		人	0.5	
	山林砂防工 (普通作業員)		〃	1.0	
	バックホウ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.8 m ³ (平積0.6m ³)		h	—
諸 雑 費 率			%	2	

(注) 1 諸雑費は、つき固め機械等の損料及び油脂類の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2 運搬距離30m程度の現場内小運搬を含む。

③ 遮水シート張歩掛

遮水シート張歩掛は、次表を標準とする。

表3.4 遮水シート張歩掛 (10m²当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量
世 話 役		人	0.02
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		〃	0.09
諸 雑 費 率		%	45

(注) 1 本歩掛は、基礎、隔壁、小口止部等の止水シートの施工を含む。

2 諸雑費は、止水シート (基礎、隔壁、小口止の端部継ぎ手及び施工ロス) 及び接着剤の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

④ 吸出し防止材 (全面)

設置歩掛吸出し防止材を全面に施工する場合の歩掛は、次表を標準とする。

表3.5 吸出し防止材(全面)設置歩掛 (10m²当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		〃	0.06

⑤ 客土投入歩掛

緑化ブロック積工の客土投入から締固めまでの歩掛は、次表を標準とする。なお、土壌改良歩掛は含まない。

表3.6 客土投入歩掛 (10m³当たり)

名称	規格	単位	数量
特殊作業員		人	0.9
山林砂防工 (普通作業員)		〃 (〃)	0.8
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ型 山積0.8 m ³ (平積0.6m ³)	h	3.8

(注) 運搬距離30m程度の現場内小運搬を含む。

3 現場打基礎コンクリート工及び現場打天端コンクリート工

① 打設工法の選定

現場打基礎工及び現場打天端工のコンクリート打設工法は、次表を標準とする。

表3.7 現場打基礎工及び現場打天端工コンクリート打設工法選定

打設地上高さ (H)	水平打設距離 (L)	打設工法
H ≤ 2m	—	人力打設
2m < H ≤ 28m	L ≤ 20m	クレーン車打設

(注) 上表により難しい場合は、別途考慮する。

② 現場打基礎工及び現場打天端工コンクリート打設歩掛

現場打基礎コンクリート工及び現場打天端コンクリート工の歩掛は、次表を標準とする。

なお、本歩掛は、コンクリート工と型枠工(製作・設置・撤去)を統合したものである。

表3.8 コンクリート打設歩掛 (10m³当たり)

名称	規格	単位	人力打設		クレーン車打設	
			基礎工	天端工	基礎工	天端工
世話役		人	2.0	1.3	1.9	1.4
特殊作業員		〃	1.9	1.7	1.5	1.9
型枠工		〃	5.1	2.6	5.1	2.6
山林砂防工 (普通作業員)		〃	6.9	5.6	6.6	4.8
ラフテレーンクレーン 賃料	排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日	—	—	0.8	0.5
諸雑费率		%	11	10	10	10

(注) 1 本歩掛には、水抜パイプの設置、型枠のはく離剤塗布及びケレン作業を含む。

2 諸雑費は、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、はく離剤、電気ドリル、電動ノコギリ損料、コンクリート打設機器損料、電力に関する経費等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3 ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4 養生が必要な場合は、「治山林道必携第3コンクリート工」による。

4 ラフテレーンクレーン作業範囲

ラフテレーンクレーンの作業範囲は、次表を標準とする。

表3.9 ラフテレーンクレーン作業範囲

規 格	作業範囲	
	打設高さ	水平打設距離
排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型25 t 吊	25m以下	14m以下

(注) バケットは、0.5m³を標準とする。

5 胴込・裏込材、吸出し防止材、客土材、コンクリートの使用量

① 胴込・裏込材、吸出し防止材、客土材及びコンクリートの使用量は、次式による。

使用量 (m²又はm³) = 設計量 × (1 + K)

K : ロス率

表3.10 ロス率 (K)

材料名	砕石	胴込・裏込 コンクリート	遮水シート	吸出し防止材	客土材	基礎・天端 コンクリート
ロス率	+0.12	+0.12	+0.08	+0.12	+0.07	+0.06

(注) 砕石及び客土材のロス率は、締固め及び施工ロスを含む。

② 間知ブロック、緑化ブロックにおける胴込コンクリート設計量は、次表を標準とする。

表3.11 胴込コンクリート設計量

ブロック質量	150 kg/個未満	150 kg/個以上
胴込コンクリート	2.2 m ³ /10 m ²	2.5 m ³ /10 m ²

(注) 上表により難しい場合は、別途考慮する。

6 植樹工

① 植樹工

樹木の植穴掘り、植付け、埋戻し、養生等であり、歩掛は次表を標準とする。ただし、樹高は50cm以下とし、土壌改良歩掛は含まない。

表3.11 植樹歩掛 (100本当たり)

名 称	単 位	数 量
世 話 役	〃	0.3
造 園 工	〃	0.9
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)	〃 (〃)	0.6

(注) 運搬距離30m程度の現場内小運搬を含む。

② 植栽工事の割増積算

新植樹木の植樹割増を適用する場合は、下記の費用を加算する。ただし、移植及び根廻し工事に係るものは除く。

割増経費 = (材料費 + 労務費 + 機械経費) × 0.5%

7 コンクリートブロック張総合歩掛

遮水シート使用によるコンクリートブロック張の一連施工歩掛は、次表を標準とする。なお、裏込材厚は、間知ブロックの場合は10～30cmに、平ブロックの場合は15～25cmに適用する。

表3.13 コンクリートブロック張総合歩掛

(10㎡当たり)

ブロック 質量	名称	規格	単位	間知 ブロック	平 ブロック	連節 ブロック
150 kg/個 未満	世話役		人	0.1	0.1	0.1
	ブロック工		〃	0.2	0.2	0.2
	特殊作業員		〃	0.6	0.2	0.1
	山林砂防工 (普通作業員)		〃 (〃)	1.2	0.7	0.7
	ラフテレーンクレーン 運転	排出ガス対策型(第 1次基準値)油圧 伸縮ジブ型25 t	日	0.3	0.2	0.2
	諸雑費率		%	6	4 (19)	5
150 kg/個 以上	世話役		人	0.1	0.1	0.1
	ブロック工		〃	0.3	0.2	0.2
	特殊作業員		〃	0.5	0.2	0.2
	山林砂防工 (普通作業員)		〃 (〃)	1.2	0.5	0.5
	ラフテレーンクレーン 運転	排出ガス対策型(第 1次基準値)油圧 伸縮ジブ型25 t	日	0.2	0.1	0.2
	諸雑費率		%	6	5 (22)	6

- (注) 1 上表は、コンクリートブロック張工、胴込コンクリート工、裏込材工及び遮水シート張工の歩掛である。
- 2 間知ブロックの諸雑費は、コンクリートバケット、パイプレータ、型枠、つき固め機械等の損料、燃料費、止水シート（基礎、隔壁、小口止端末部継手）、施工ロス及び接着剤の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 3 平ブロックの諸雑費は、つき固め機械等の損料、燃料費、止水シート（基礎、隔壁、小口止端末部継手）、施工ロス及び接着剤の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。また、平ブロックの（ ）内の率は、目地モルタルを使用した場合の材料費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 4 平ブロックの施工歩掛には、連結金具の組立歩掛を含む。ただし、連結金具は必要により別途計上する。
- 5 連節ブロックの諸雑費は、溶接機等の損料、燃料費、止水シート（基礎、隔壁、小口止の端末継手部）、施工ロス及び接着剤の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 6 連節ブロックの連結方式は鉄筋又は鋼線によるものとし、連結金具を使用する場合は適用出来ないものとする。
- 7 連節ブロックの施工歩掛には、鉄筋又は鋼線の加工・組立・溶接等の歩掛を含む。ただし、鉄筋又は鋼線は必要量を別途計上し、使用量は設計量×1.03とする。
- 8 コンクリートブロック張工と遮水シート張工は、同施工面積とする。
- 9 ラフテレーンクレーンの運転は、コンクリートブロック、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材の吊上げ及び吊下げ作業であり、賃料とする。なお、現場条件等により25 t吊で施工が不可能な場合は、規格以上で最適の機種を選定する。
- 10 運搬距離30m程度の現場内小運搬を含む。
- 11 現場条件により特に足場が必要な場合は、別途計上することが出来る。
- 12 設計面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。

4 単価表

(1) コンクリートブロック積工10㎡当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.1
ブ ロ ッ ク 工		〃		〃
特 殊 作 業 員		〃		〃
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃		〃
間知ブロック		個又は㎡		
鉄 筋		t		必要に応じて計上 設計量×1.03
ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型(第1 次基準値)油圧伸縮ジ ブ型 25t吊	日		表3.1
諸 雑 費		式	1	〃 (注)2
計				

(2) コンクリートブロック張工〔間知ブロック〕10㎡当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.1
ブ ロ ッ ク 工		〃		〃
特 殊 作 業 員		〃		
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃 (〃)		
間知ブロック		個又は㎡		
ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型(第1 次基準値)油圧伸縮ジ ブ型 25t吊	日		
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) コンクリートブロック張工〔平ブロック〕10㎡当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.1
ブ ロ ッ ク 工		〃		〃
特 殊 作 業 員		〃		〃
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃		〃
平 ブ ロ ッ ク		個又は㎡		〃
連 結 金 具		個		必要に応じて計上
ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型(第1 次基準値)油圧伸縮ジ ブ型 25t吊	日		表3.1
諸 雑 費		式	1	〃 (注)5
計				

(4) コンクリートブロック張工〔連節ブロック〕10㎡当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.1
ブ ロ ッ ク 工		〃		〃
特 殊 作 業 員		〃		〃
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃		〃
連 節 ブ ロ ッ ク		個又は㎡		〃
連 節 鉄 筋 (鋼 線)		t		設計量×1.03
ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型(第1 次基準値)油圧伸縮ジ ブ型 25t吊	日		表3.1
諸 雑 費		式	1	〃(注)8
計				

(5) 緑化ブロック積工10㎡当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.1
ブ ロ ッ ク 工		〃		〃
特 殊 作 業 員		〃		〃
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃		〃
緑 化 ブ ロ ッ ク		個		〃
天 端 ブ ロ ッ ク		t		必要に応じて計上
ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型(第1 次基準値)油圧伸縮ジ ブ型 25t吊	日		表3.1
諸 雑 費		式	1	〃(注)8
計				

(6) 胴込・裏込コンクリート工10㎡当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	1.2	表3.2
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃	2.3	〃
コ ン ク リ ー ト		㎡	11.2	10×〔1+ロス率(表 3.10)〕
諸 雑 費		式	1	表3.2(注)1
計				

(7) 胴込・裏込材工(砕石)10㎡当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		表3.3
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃		〃
砕 石		㎡		10×〔1+ロス率(表 3.10)〕

バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ型山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	h		表3.3 ※緑化ブロックの場合に計上
諸雑費		式	1	表3.3(注)1
計				

(8) 遮水シート張工10 m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表3.4
山林砂防工(普通作業員)		〃		〃
遮水シート	厚1.0+10.0mm	m ²		10×[1+ロス率(表3.10)]
諸雑費		式	1	表3.4(注)2
計				

(9) 吸出し防止材(全面)設置工10m²当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
山林砂防工(普通作業員)		人		表3.5
吸出し防止材		m ²		10×[1+ロス率(表3.10)]
諸雑費		式	1	
計				

(10) 客土工10m³当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表3.6
山林砂防工(普通作業員)		〃		〃
購入土		m ³		必要に応じて計上 10×[1+ロス率(表3.10)]
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ型山積0.8 m ³ (平積0.6 m ³)	h		表3.6
諸雑費		式	1	
計				

(11) 植樹工100本当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表3.12
造園工		〃		〃
山林砂防工(普通作業員)		〃		〃
樹木		本		
諸雑費		式	1	
計				

(12) 現場打基礎コンクリート工10m³当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表3.8
特殊作業員		〃		〃
型枠工		〃		〃
山林砂防工 (普通作業員)		〃		〃
コンクリート		m ³		10× [1+ロス率(表3.10)]
養生工		式		必要に応じて計上
ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型(第1次 基準値)油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		表3.8
諸 雑 費		式	1	〃 (注)2
計				

(13) 現場打天端コンクリート工10m³当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表3.8
特殊作業員		〃		〃
型 枠 工		〃		〃
山林砂防工 (普通作業員)		〃		〃
コンクリート		m ³	10.6	10× [1+ロス率(表3.10)]
養生工		式		必要に応じて計上
ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型(第1次 基準値)油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		表3.8
諸 雑 費		式	1	〃 (注)2
計				

(14) コンクリートブロック張工〔間知ブロック〕(総合)10m²当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世話役		人		表3.8
ブロック工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
山林砂防工 (普通作業員)		〃		〃
間知ブロック		個又はm ²		10× [1+ロス率(表3.10)]
胴 込 ・ 裏 込 コンクリート		m ³		設計量× [1+ロス率 (表3.10)]
裏 込 材		〃		設計量 10× [1+ロス 率(表3.10)]
遮 水 シ ー ト		m ²	10.8	設計量 10× [1+ロス 率(表3.10)]
吸出し防止材(全 面)設置工		〃		(9)単価表、必要に 応じて計上

ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型（第1次 基準値）油圧伸縮ジブ	日		表3.13
諸 雑 費		式	1	〃（注）2
計				

(15) コンクリートブロック張工〔平ブロック〕（総合）10m²当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.8
ブ ロ ッ ク 工		〃		〃
特 殊 作 業 員		〃		〃
山 林 砂 防 工 （普通作業員）		〃		〃
平 ブ ロ ッ ク		個又はm ²		〃
連 結 金 具		m ³		必要に応じて計上
裏 込 材		〃		設計量 10×〔1+ロス率(表3.10)〕
遮 水 シ ー ト		m ²	10.8	設計量 10×〔1+ロス率(表3.10)〕
吸出し防止材(全 面)設置工		〃		(9)単価表、必要に応じて計上
ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型（第1次 基準値）油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		表3.13
諸 雑 費		式	1	〃（注）3
計				

(16) コンクリートブロック張工〔連節ブロック〕（総合）10m²当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表3.13
ブ ロ ッ ク 工		〃		〃
特 殊 作 業 員		〃		〃
山 林 砂 防 工 （普通作業員）		〃		〃
コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク		個又はm ²		〃
連 節 鉄 筋（鋼線）		式		設計量×1.03
遮 水 シ ー ト		m ²		設計量 10×〔1+ロス率(表3.10)〕
吸出し防止材（全 面）設置工		式	10.8	(9)単価表、必要に応じて計上
ラフテレーンクレーン 運 転	排出ガス対策型（第1次 基準値）油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		表3.13
諸 雑 費		式	1	〃（注）5
計				

(17) 養生工（一般養生）10 m³当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		人		第3コンクリート工 3-1-8養生工
諸 雑 費		式	1	〃
計				

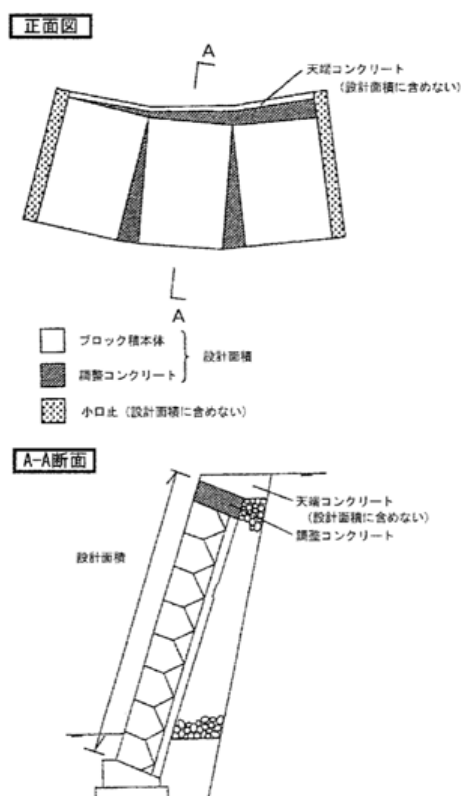
(18) 養生工（練炭養生）10 m³当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		人		第3コンクリート工 3-1-9養生工(特殊 養生)
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(19) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型（第1次基準 値）クローラ型 山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	機-1	胴込・裏込材投入 運転労務数量→0.25 客土投入 運転労務数量→0.25

コンクリートブロック積工（調整コンクリート・小口止）参考図



(9) L型プレキャスト擁壁工関係歩掛

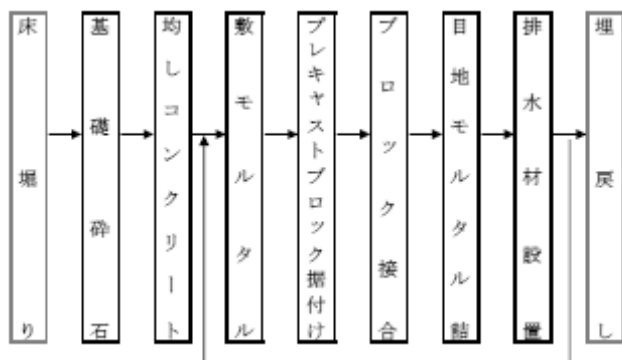
1) 適用範囲

この資料は、次に示すプレキャスト擁壁の設置に適用する。

- ・擁壁の形式：L型、逆T型、側溝付擁壁
- ・擁壁の高さ：0.5m以上5.0m以下
- ・ブロック単体の長さ：2.0m/個

2) 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
2 本歩掛には、撤去は含まれていない。

3) 施工歩掛

1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3. 1 機種を選定

擁壁の高さ(m)	機 械 名	規 格	単 位	数 量
0.5以上1.0以下	バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・クレーン機能付 山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）2.9t吊	台	1
1.0を超え5.0以下	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型25t吊	〃	1

- (注) 1 バックホウ（クレーン機能付）及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。
2 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

2 日当たり構成人員 日当たり構成人員は、次表を標準とする。

表3. 2 日当たり構成人員 (人)

世 話 役	ブロック工	山林砂防工 (普通作業員)
1	1	3

3 日当たり施工量

日当たり施工量 (D) は、次表を標準とする。

表3. 3 日当たり施工量 (D)

擁壁ブロックの高さ (m)	0.5以上 1.0以下	1.0を超え 2.0以下	2.0を超え 3.5以下	3.5を超え 5.0以下
日当たり施工日数	45	38	30	24

- (注) 1 本歩掛で対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するプレキャスト擁壁で

ある。なお、製品天端を斜めにカットしたタイプを含む（製品を斜めにカットしたタイプの擁壁ブロック高さは、中央値を採用する）。

- 2 歩掛は、運搬距離10m程度までの現場内小運搬を含むものであり、床掘り、埋戻し、雑工種（基礎砕石、均しコンクリート）、残土処理は含まない。

4 雑工種

付帯する雑工種に要する費用は、次表のとおりとする。

表3. 4 雑工種率 (%)

名 称	擁壁ブロックの 高さ(m)	0.5以上 1.0以下	1.0を超え 2.0以下	2.0を超え 3.5以下	3.5を超え 5.0以下
		雑工種率	基礎砕石	45	53
	均しコンクリート	74	87	98	108

(注) 1 雑工種は、労務費、機械賃料及び運転経費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

なお、雑工種に含まれる内容は、次のとおりである。

[基礎砕石]

敷設・転圧労務、材料投入・締固め機械運転経費、砕石等材料費

[均しコンクリート] 打設・養生・型枠製作・設置・撤去労務、電力に関する経費、シュート・ホップ・バイブレータ損料、コンクリート、養生材、均し型枠材料費

- 2 基礎砕石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。
- 3 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。
- 4 本歩掛には、均しコンクリート型枠施工時の剥離材塗布及びケレン作業を含む。
- 5 養生は、養生材の被覆、散水養生、被覆養生程度のものであり、保温養生等の特別な養生を必要とする場合は、雑工種率（均しコンクリート）から3.0%減ずるものとし、養生費を「治山林道必携第3コンクリート工 3-1コンクリート工」により別途計上する。
- 6 ペーラインコンクリートが必要な場合は、「治山林道必携第3コンクリート工 3-1コンクリート工」により別途計上する。

5 諸雑費

諸雑費は、敷モルタル、目地モルタル、排水材の費用であり、労務費及び機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表3.4 諸雑费率 (%)

擁壁ブロックの高さ(m)	0.5以上 1.0以下	1.0を超え 2.0以下	2.0を超え 3.5以下	3.5を超え 5.0以下
名 称				
諸 雑 費 率	16	18	20	21

6 単価表

(1) プレキャスト擁壁10m当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10/D	表3.2、表3.3
ブ ロ ッ ク 工		〃	1×10/D	〃 〃
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		〃	3×10/D	〃 〃
プレキャストブロック		個	5	L=2m/個
バ ッ ク ホ ウ 運 転 (ク レ ー ン 機 能 付)	排出ガス対策型(第1次 基準値)クローラ型・ク レーン機能付山積0.8 m ³ (平積0.6m ³)2.9t吊	日	1×10/D	
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次 基準値)油圧伸縮ジブ型 25t吊	日	1×10/D	表3.1、表3.3
雑 工 種	基 礎 砕 石	式	1	
	均 し コ ン ク リ ー ト	〃	1	
諸 雑 費		〃	1	表3.4
計				

(注) D：日当たり施工日数 (m/日)

(2) 機械運転単価表

機械名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型・クレーン機能付 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 2.9t吊	機-28	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量 → 76 賃料数量 → 1.45

(10) 擁壁工（補強土壁工）関係歩掛

1) 適用範囲

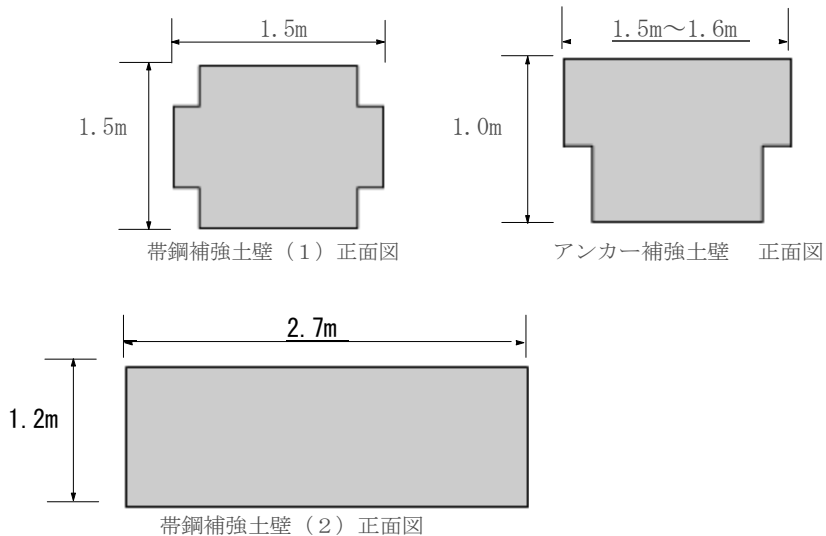
本歩掛は、補強土壁工（帯鋼補強土壁（1）・帯鋼補強土壁（2）・アンカー補強土壁）において、コンクリート製壁面材（帯鋼補強土壁においては、薄型壁面材を含む）によるものに適用する。なお、鋼製壁面材には適用しない。

帯鋼補強土壁（1）・帯鋼補強土壁（2）・アンカー補強土壁の標準仕様は、次表とする。

帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁における壁面材・補強材の仕様

工 種	帯鋼補強土壁		アンカー補強土壁
	帯鋼補強土壁（1）	帯鋼補強土壁（2）	
標準壁面形状	十字型の1.5m×1.5m (高さ×長さ)	長方形の1.2m×2.7m (高さ×長さ)	1.0m×1.5m～1.6m (高さ×長さ)
補 強 材	ストリップ幅:60～80mm	ストリップ幅:80mm	SS400規格, SS490規格
壁 面 材 強 度	コンクリート設計基準 強度:21～30N/mm ²	コンクリート設計基準 強度:30N/mm ²	コンクリート設計基準 強度30N/mm ² , 40N/mm ²
盛 土	1層仕上り厚さ:25cm	1層仕上り厚さ:30cm	1層仕上り厚さ:25cm

参考図 各工種の標準壁面形状

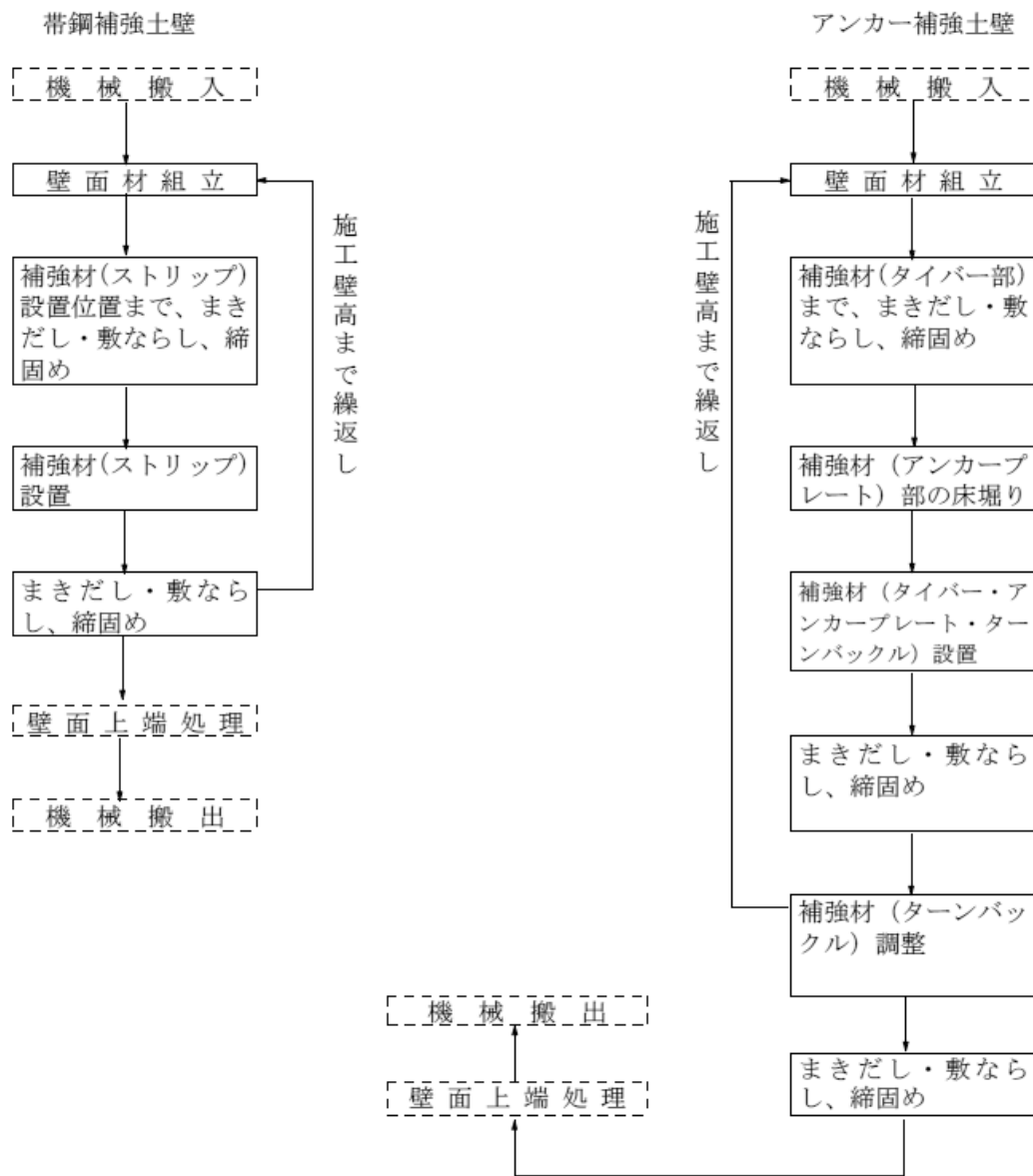


(注) 1. 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形状である。

2. 本歩掛は、壁面最上段部（ハーフ）最下段部（ハーフ）コーナー部等の異形壁面材にかかわらず適用できる。

2) 施工概要

施工フローは次図を標準とする。



備考 本歩掛に対応しているのは、実線部分のみである。

3) 機種を選定

壁面材組立、敷ならし、締固めに使用する機種は、次表を標準とする。

作業	標準機種		摘要
	機械名	規格	
壁面材組立	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 25 t 吊	(備考) 1、2
	バックホウ	クローラ型 [標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型] 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)2.9 t 吊	
まきだし ・敷ならし	バックホウ	クローラ型 [標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型] 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)2.9 t 吊	
	ブルドーザ	湿地・排出ガス対策型 7 t 級	
締固め	振動ローラ	排出ガス対策型 コンバインド式 3~4 t	

- 備考 1 ラフテレーンクレーン・バックホウ・ブルドーザ・振動ローラは賃料とする。
2 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

4) 施工歩掛

1 壁面材組立・設置工

壁面材組立・設置工歩掛は、次表とする。

壁面材組立・設置工歩掛

(100m²当たり)

名称	単位	組立・設置工		
		帯鋼補強土壁		アンカー補強土壁
		帯鋼補強土壁(1)	帯鋼補強土壁(2)	
世話役	人	1.0	2.0	1.5
特殊作業員	〃	1.0	5.0	1.5
山林砂防工 (普通作業員)	〃	2.1	2.0	3.1
ラフテレーンクレーン 運転	日	0.5	0.5	0.5
バックホウ運転	〃	2.0	1.0	2.5
諸雑費	%	10	9	8

- 備考 1 壁面材組立・設置工歩掛には、透水防砂材の設置歩掛を含む。
2 諸雑費は、クランプ、定規、ワイヤ、吊り金具、カップラーくさび、スペーサー、角材、支柱等、多数アンカー工において、カップラー、ワイヤー、角材の費用であり労務費及び機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3 基礎コンクリートについては、「治山林道必携第3コンクリート工」により別途計上する。
4 ラフテレーンクレーン・バックホウは、賃料とする。

2 補強材取付け工補強材取付け工歩掛は、次表とする。

補強材取付け工歩掛

(100 m当たり)

名 称	単 位	取 付 け 工		
		帯鋼補強土壁		アンカー補強土壁
		帯鋼補強土壁(1)	帯鋼補強土壁(2)	
世 話 役	人	0.11	0.11	0.17
特 殊 作 業 員	〃	0.11	0.11	0.17
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)	〃	0.22	0.22	0.52

備考 壁面材と補強材の結合作業を含む。また、アンカー補強土壁においては、ターンバックルの設置調整を含む。

3 まきだし・敷ならし、締固め工 まきだし・敷ならし、締固め工歩掛は、次表とする。

まきだし・敷ならし、締固め工歩掛

(100 m³当たり)

名 称	単 位	まきだし・敷ならし、締固め工		
		帯鋼補強土壁		アンカー補強土壁
		帯鋼補強土壁(1)	帯鋼補強土壁(2)	
世 話 役	人	0.51	0.43	0.51
特 殊 作 業 員	〃	0.40	0.28	0.40
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)	〃	0.83	0.73	0.83
バ ッ ク ホ ウ 運 転	日	0.23	0.21	0.23
ブ ル ド ー ザ 運 転	〃	0.29	0.25	0.29
振 動 ロ ー ラ 運 転	〃	0.29	0.24	0.29
諸 雑 費 率	%	3	3	3

- 備考 1 本歩掛の範囲は、壁面上面までと補強材後部までの盛土を対象とする。
 2 諸雑費は、振動ローラ、タンパの運転経費等の費用であり、労務費、賃料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 3 バックホウ・ブルドーザ・振動ローラは、賃料とする。

5) 単価表

1 補強土壁工（帯鋼補強土壁（1）・帯鋼補強土壁（2）・アンカー補強土壁）一式内訳書

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
壁面材組立・設置工		m ²		単価表2)
補強材取付け		m		〃 3)
まきだし・敷ならし、 締 固 め 工		m ³		〃 4)
コンクリート工		〃		備考1
鉄 筋 工		t		〃
型 枠 工		m ²		〃
排 水 管 布 設		m		必要に応じて計上
計				

備考 1 壁面上端処理を施工する場合に計上する。

2 天端コンクリート施工等の足場については、別途計上する。

2 壁面材組立・設置工100m²当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		(4)－1)
特 殊 作 業 員		〃		〃
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃		〃
壁 面 材		m ²	100	
ラフテレーンクレーン 賃料	油圧伸縮ジブ型・排出 ガス対策型 25 t 吊	日		(4)－1)
バ ッ ク ホ ウ 運 転	クローラ型 [標準型・ クレーン機能付き・排 出ガス対策型]山積0.5 m ³ (平積0.4m ³)2.9 t 吊	〃		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

備考 壁面材には、水平目地材、透水防砂材、ボルト・ナットを含む。

3 補強材取付け工100m当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		(4)－2)
特 殊 作 業 員		〃		〃
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃		〃
補 強 材		m	100	
諸 雑 費		式	1	
計				

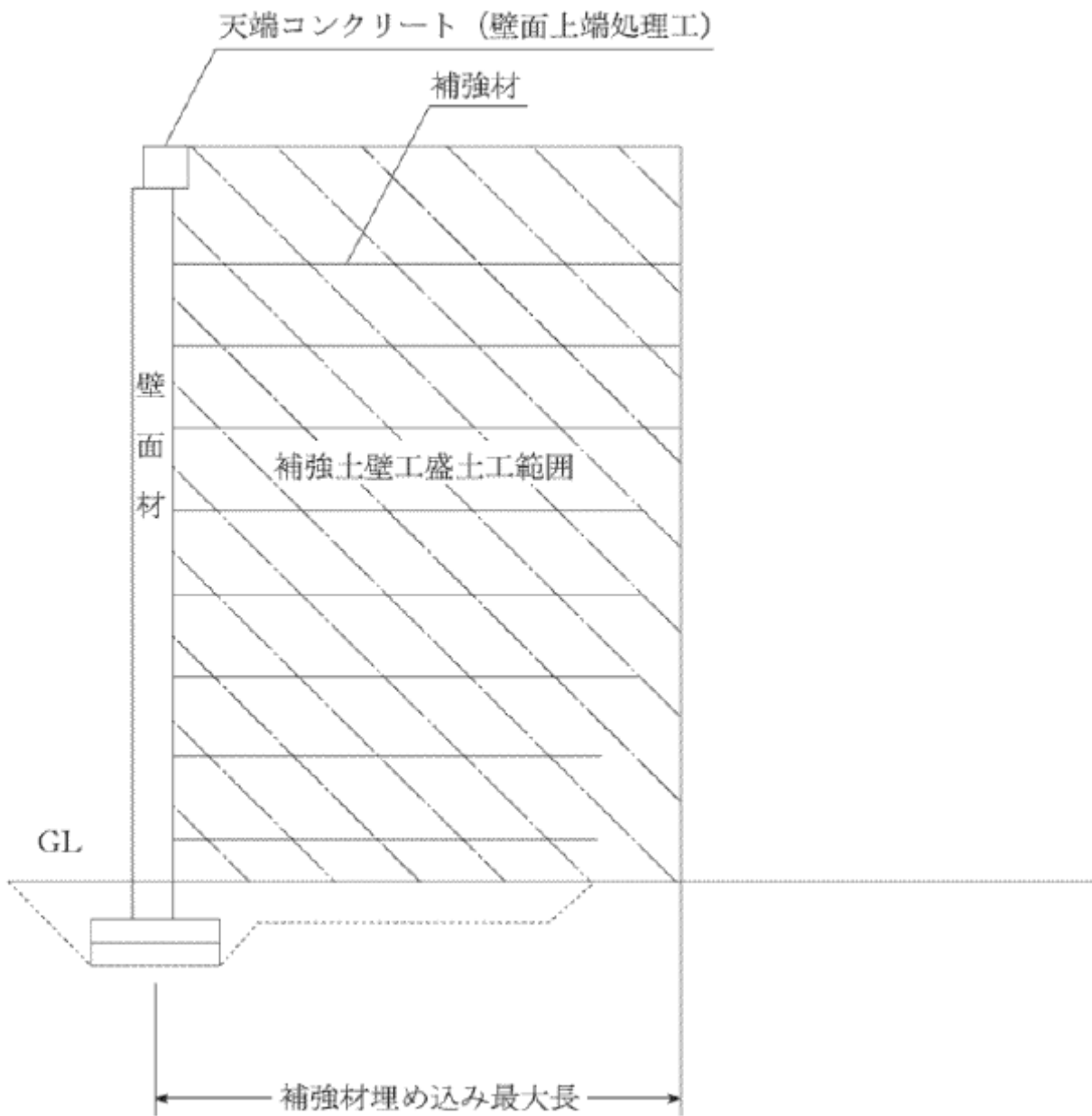
4 まきだし・締固め工100m³当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話		人		(4)－3)
特 殊 作		〃		〃
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		〃 (〃)		〃
バ ッ ク ホ ウ	クローラ型 [標準型・ クレーン機能付き・排 出ガス対策型]山積0.5 m ³ (平積0.4m ³)2.9 t 吊	日		〃
ブ ル ド ー ザ	湿地・排出ガス対策型 7 t 級	〃		〃
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型 コン バインド式 3～4 t	〃		〃
諸 雑 費		式	1	
計				

5 機械運転単価表

名 称	規 格	適用単価表	指定事項
(壁面材組立機械) バックホウ 〔帯鋼補強土壁(1)〕	クローラ型〔標準型・クレーン 機能付き・排出ガス対策型〕 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)2.9 t 吊	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 51 機械賃料数量 → 1.56
(壁面材組立機械) バックホウ 〔帯鋼補強土壁(2)〕	クローラ型〔標準型・クレーン 機能付き・排出ガス対策型〕 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)2.9 t 吊	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 48 機械賃料数量 → 1.56
(壁面材組立機械) バックホウ 〔アンカー補強土壁〕	クローラ型〔標準型・クレーン 機能付き・排出ガス対策型〕 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)2.9 t 吊	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 51 機械賃料数量 → 1.56
(まきだし・敷ならし 機械) バックホウ 〔帯鋼補強土壁(1)〕	クローラ型〔標準型・クレーン 機能付き・排出ガス対策型〕 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)2.9 t 吊	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 52 機械賃料数量 → 1.56
(まきだし・敷ならし 機械) ブルドーザ 〔帯鋼補強土壁(1)〕	湿地・排出ガス対策型 7 t 級	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 34 機械賃料数量 → 1.43
(まきだし・敷ならし 機械) バックホウ 〔帯鋼補強土壁(2)〕	クローラ型〔標準型・クレーン 機能付き・排出ガス対策型〕 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)2.9 t 吊	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 47 機械賃料数量 → 1.56
(まきだし・敷ならし 機械) ブルドーザ 〔帯鋼補強土壁(2)〕	湿地・排出ガス対策型 7 t 級	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 33 機械賃料数量 → 1.43
(まきだし・敷ならし 機械) バックホウ 〔アンカー補強土壁〕	クローラ型〔標準型・クレーン 機能付き・排出ガス対策型〕 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)2.9 t 吊	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 52 機械賃料数量 → 1.56
(まきだし・敷ならし 機械) ブルドーザ 〔アンカー補強土壁〕	湿地・排出ガス対策型 7 t 級	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 34 機械賃料数量 → 1.43
(締めめ機械) 振動ローラ 〔帯鋼補強土壁(1)〕	排出ガス対策型 コンバインド 式 3~4 t	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 13 機械賃料数量 → 1.68
(締めめ機械) 振動ローラ 〔帯鋼補強土壁(2)〕	排出ガス対策型 コンバインド 式 3~4 t	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 13 機械賃料数量 → 1.68
(締めめ機械) 振動ローラ 〔アンカー補強土壁〕	排出ガス対策型 コンバインド 式 3~4 t	機-28	機械労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 13 機械賃料数量 → 1.68

(参考図)



補強土壁工標準断面図

(11) ジオテキスタイル工 (参考歩掛)

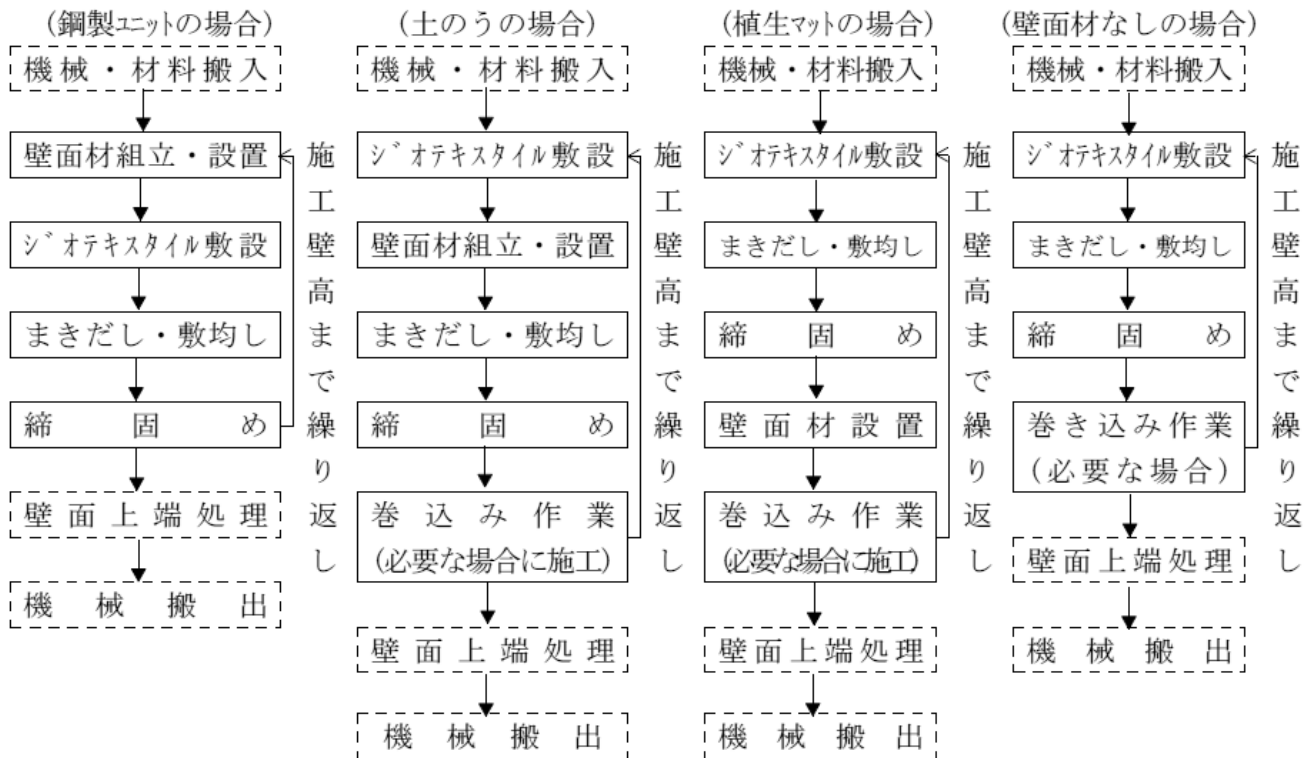
1) 適用範囲

本歩掛は、ジオテキスタイル（ジオグリット、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。

2) 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

壁面材別施工フロー



- 備考 1 本歩掛に対応しているのは、実線部分のみである。
2 壁面材組立・設置は、必要な場合に計上する。

3) 機種を選定

各作業に使用する機種は、次表を標準とする。

機種を選定

作業名	機械名	規格	摘要
まきだし敷ならし	バックホウ	排出ガス対策型・クローラ型 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	備考2

- 備考 1 バックホウは、賃料とする。
2 現場条件により難しい場合は、別途機種・規格を選定するものとする。
3 現場条件によりクレーン等が必要となった場合は、別途考慮するものとする。

4) 編成人員

各作業における編成人員は、次表を標準とする。

編成人員

(1日当たり)

作業名	路面材種類	世話役	特殊作業員	山林砂防工 (普通作業員)	摘 要
壁面材の 組立設置	鋼製ユニット	—	—	3	備考 (必要な場合に計上)
	土のう	—	—	4	
	植生マット	—	—	2	
ジオテキスタイル敷設 まきだし、敷ならし締固め		1	2	4	

備考 コンクリートブロック積は別途考慮するものとする。

5) 施工歩掛

1 壁面材組立、設置工

ア 壁面材組立・設置1日当たり施工量 (D1)

壁面材組立・設置1日当たり施工量は次表を標準とする。

1日当たり施工量 (D1)

(1日当たり)

名 称	単 位	数 量
鋼製ユニット施工量	m ²	59
土のう(植生土のう含む)施工量	//	36
植生マット施工量	//	117

備考 上表における鋼製ユニット及び土のう施工量は、壁面材の実面積(直面積)であり、植生マット施工量は、斜面積である。

イ 壁面材の種類

適用される壁面材の種類は次表のとおりとする。

壁面材の種類

壁面材種類	規 格			備 考
	幅 (mm)	高 (mm)	厚 (mm)	
鋼製ユニット	2,000	—	—	タイプA
	2,000	—	—	タイプB
	1,000	—	—	タイプC
	1,200	—	—	タイプD
土のう(植生土のう含む)	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)	
	620	480	100	
	600	400	100	
	400	400	200	
植生マット	各 種			

備考 現場条件等により、上表以外の規格壁面材を使用する場合は別途考慮する。

タイプ別	タイプA	タイプB	タイプC	タイプD
一層当たり施工高さ	500mm以下	600mm以下	500mm以下	500mm以下

2 ジオテキスタイル敷設、まきだし、敷ならし、締固め工

ア ジオテキスタイル敷設、まきだし、敷ならし、締固め1日当たり施工量 ジオテキスタイル敷設、まきだし、敷ならし、締固め1日当たり施工量は次表とする。

1日当たり施工量 (D2)

(1日当たり)

名 称	単 位	数 量
ジオテキスタイル敷設、まきだし、敷ならし、締固め施工量	m ²	93

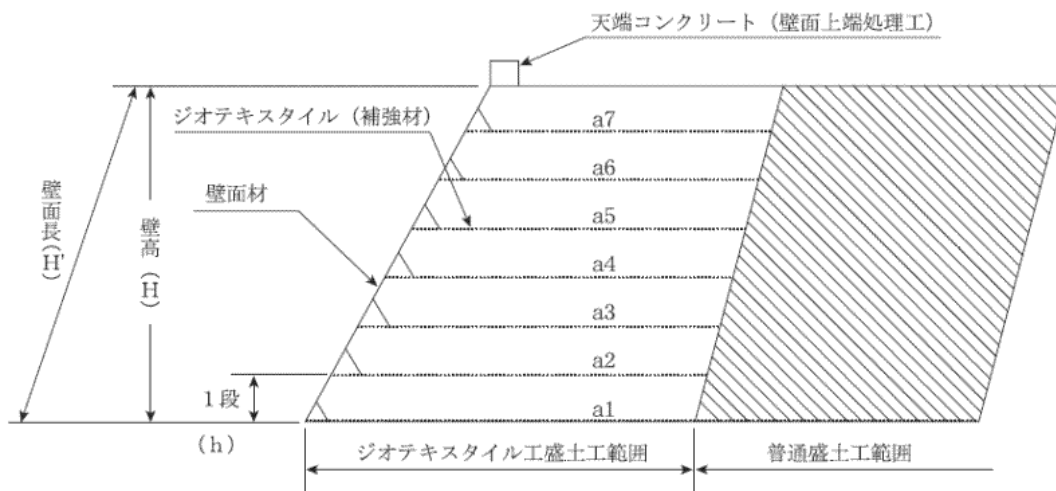
備考 1 上表、ジオテキスタイルの敷設(ジオテキスタイル巻き込み作業を含む)、まきだし、敷均し及び締固めを含む1段当たりのジオテキスタイル敷設面積である。ただし、敷設面積には、巻き込み部の面積は含まないものとする。

2 ジオテキスタイルの敷設面積の算出については、次式のとおりとする。ジオテキスタイルの敷設面積 = $a_1 + a_2 + a_3 + \dots$ (m²) a_1, a_2, a_3, \dots : ジオテキスタイル工1段当たり敷設面積 (m²) (参考図参照)

3 上表におけるジオテキスタイル工1段当たり施工高さは1.5mまでとする。

4 上表は、ジオテキスタイル工1段当たりのまきだし、敷ならし及び締固め回数 に関係なく適用する。

(参考図) ジオテキスタイル工標準断面図



直面積 = 壁高 (H) × 施工延長 (L) [m²] 斜面積 = 壁面長 (H') × 施工延長 (L) [m²]

イ 諸雑費

諸雑費は、振動ローラ、ランマ及びタンパの運転経費、ジオテキスタイル敷設に使用する杭、木槌、バール等及び壁面材を固定するボルト・ナット等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

諸雑费率 (%)	10
----------	----

6) 排水管敷設工

排水管敷設工を施工する場合は、別途計上する。

7) 壁面上端処理工

壁面上端処理工を施工する場合は、下記による。

1 コンクリート工

「治山林道必携第3コンクリート工」により別途計上する。

2 型枠工

「治山林道必携第3コンクリート工 型枠工」により別途計上する。

3 鉄筋工

市場単価又は「治山林道必携第3コンクリート工3-4鉄筋工」により別途計上する。

4 足場工

「治山林道必携第8仮設工 足場工」により別途計上する。

8) 単価表

1 ジオテキスタイル工内訳書

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
壁 面 材 組 立 ・ 設 置 工		m ²		必要な場合に計上 2) 単価表
ジオテキスタイル材料費		〃		必要数量計上する。
ジオテキスタイル敷設 まきだし、敷ならし 締 固 め 工		〃		3) 単価表
盛 土 材 料 費		m ³		必要な場合に計上
計				

2 壁面材組立・設置単価表

ア 鋼製ユニット組立設置100m²当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		人	3×100/D1	(5)-1)ア、(4)
壁 面 材 材 料 費	エキスパンドメタル製 鋼製ユニット	個		(5)-1)イ
計				

備考 D1：日当たり施工量

イ 土のう（植生土のう含む）設置100㎡当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		人	4×100/D1	(5)－1)ア、(4)
壁 面 材 材 料 費	土のう(植生土の う含む)	袋		(5)－1)イ
計				

備考 D1：日当たり施工量

ウ 植生マット設置100㎡当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		人	2×100/D1	(5)－1)ア、(4)
壁 面 材 材 料 費	植生マット	㎡	100	(5)－1)イ
計				

備考 D1：日当たり施工量

3 ジオテキスタイル敷設、まきだし、敷ならし、締固め100㎡当たり単価表

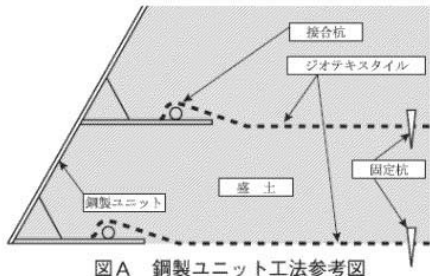
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×100/D2	(5)－2)ア、(4)
特 殊 作 業 員		〃	2×100/D2	(5)－2)ア、(4)
山林砂防工 (普 通 作 業 員)		〃	4×100/D2	(5)－2)ア、(4)
バ ッ ク ホ ウ 運 転	排出ガス対策型・クローラ型 山積0.5㎡(平積0.4㎡)	日	100/D2	(5)－2)ア
諸 雑 費		式	1	(5)－2)イ
計				

備考 D2：日当たり施工量

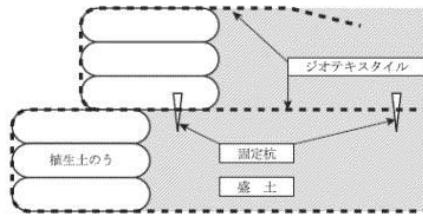
4 機械運転単価表

機械名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型・クローラ型 山積0.5㎡(平積0.4㎡)	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→63 賃料数量→1.30

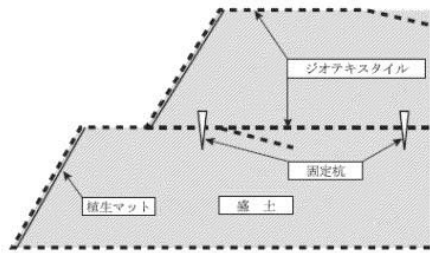
(参考1)



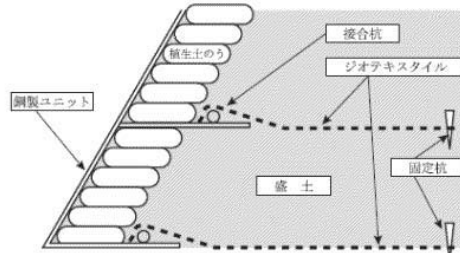
図A 鋼製ユニット工法参考図



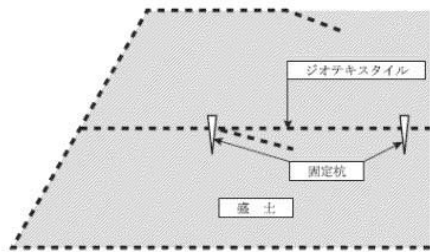
図B 巻き込み工法（植生土のう）参考図



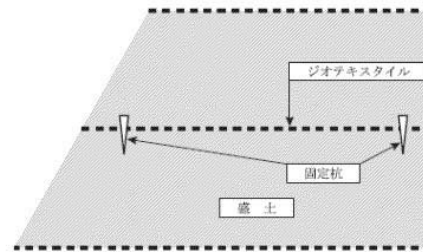
図C 巻き込み工法（植生マット）参考図



図D 鋼製ユニット+植生土のう工法参考図



図E 巻き込み工法（壁面材なし）参考図



図F 普通敷設工法（壁面材なし）参考図

施工方法別施工歩掛適用表

施工法（工法）	適用	壁面材設置・組立			ジオテキスタイル敷設、まきだし、敷均し、締固め
		鋼製ユニット	土のう （植生土のう）	植生マット	
鋼製ユニット工法	図A	○	×	×	○
巻き込み工法 （植生土のう）	図B	×	○	×	○
巻き込み工法 （植生マット）	図C	×	×	○	○
鋼製ユニット +植生土のう工法	図D	○	○	×	○
巻き込み工法 （壁面材なし）	図E	×	×	×	○
普通敷設工法 （壁面材なし）	図F	×	×	×	○

(参考2)

① 鋼製ユニット

実面積（直壁）100㎡当たり鋼製ユニット使用量は、次表を参考とする。

鋼製ユニット標準使用量 (（直面積）100㎡当たり)

壁面材種類	タイプ	一層当たり施工高	単位	数量	標準図
鋼製ユニット	タイプA	500mm以下	個	100	図①
	タイプB	600mm以下		83	
	タイプC	500mm以下		200	
	タイプD	500mm以下		167	

② 土のう（植生土のう含む）

実面積（直面積）100㎡当たり土のう（植生土のう含む）使用量は、次表を参考とする。

土のう（植生土のう含む）標準使用量 (（直面積）100㎡当たり)

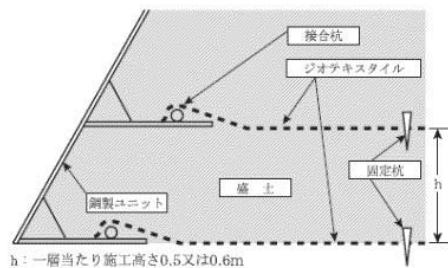
壁面材種類	規格	単位	数量	標準図
土のう (植生土のう)	長620×幅480×高100	袋	2,200	図②
	長600×幅400×高100		2,500	
	長400×幅400×高200		1,250	

③ 植生マット

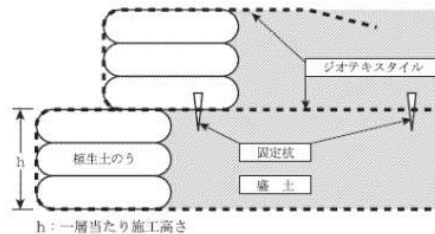
実面積（斜面積）100㎡当たり植生マット使用量は、次表を参考とする。

植生マット標準使用量

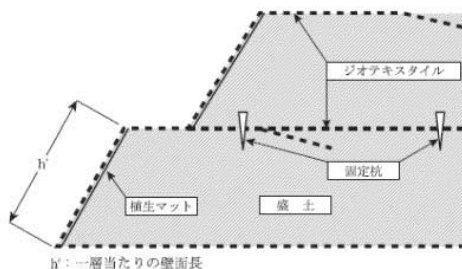
壁面材種類	規格	単位	数量	標準図
植生マット	各種	㎡	100	図③



図① 鋼製ユニット施工数量標準図



図② 土のう施工数量標準図



図③ 植生マット施工数量標準図